

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです  
子供は親を選んで生まれてくる。どんな苦勞も君を成長させる。贈り物だと思いなさい。

少しずつでも成長する由樹に、船井先生のこの言葉の意味を深く考えるようになっていました。彼が四歳の、ちょうど父の日。ベッドで目を覚ますと、もう九時です。少し寝すぎたかな。起きなきゃ、と思って上半身を起こしました。すると、階下から、パタンパタンと音がします。

寝室は三階にあり、由樹のベッドも同じ部屋にあります。すでに空。妻が抱いて一階のリビングに降りたのでしょう。そのころ、尻でいざって移動するようになっていましたが、まだ階段の昇り降りは、厳しい時期でした。

パタン、パタンという何かを打つ音は、下から徐々に上へと近づいてきていました。ひょっとすると……。由樹が、いざりながら階段を上がってきているかもしれない、そう思いました。

彼にとって、一階から三階まで尻で上がってくるのは大変な運動です。身長は未だ六〇センチで、一歳半にも届かない成長でした。でも確実にその音は、三階の寝室へと近づいてくるのです。起きあがって、階段へとかけよりたい気持ちと戦いながら、じっとベッドの中にいました。「パパ!オ・キ・テ」彼は扉を軽く押して開けると、そう言いながら、一所懸命ベッドの上へと昇ろうとします。朝日が、ニコニコと笑う由樹をとて綺麗に彩っていました。素晴らしい父の日のプレゼントに、思わず彼をベッドに抱きあげて、頬ずりしました。

「君はパパを選んで生まれてきてくれたんだな。ありがとう」そう言わずにおれなかったのです。なんの拍子でしょうか、その話を船井先生にしました。「子供はね、親を選んで生まれてくるんだよ。とても大切なことを教えられてるじゃないか」ニコニコと語る船井先生の言葉に、自然とうなずいていました。「どんな大変なことで、その人間にとって乗り越えられないことは、来ないのだよ。乗り越えることで、何かが見えてくる」船井先生から、たくさんの名医・能力者を教えられていました。その出会いのなかでも、いろいろと学ぶことが多くありました。素晴らしい能力者は、決して脅しや悲観的なことを言いません。また、小さな進歩や変化を、とても我事のように喜んでくれるのです。「親身になれる人が素晴らしい人だね。より高い能力をもっている人ほど、人格が高いものなんだ」由樹のお陰で、さまざまな出会いや、人の心の意味を教えられています。そう答えると、船井先生がいつも口にしてくれる言葉を、また聞かせてくれました。「どんな苦勞も君を成長させてくれる贈りものだと思いなさい。そう思って経験すれば、人間性も磨かれるのだからね」会長室を出て、夏の日差しの街へと出ました。「この親なら、今世の自分のテーマをともに考え、ともに学んでくれる。そう考えて、親を選んで来るんだよ」とともに考え、ともに学ぶ。いま、一番なんとかしたいと思いつているのは、私でも妻でもなく、由樹なのだと思えました。そのとき、急にセミの声が大きくなったように思えたのでした。子供は、親を選んで生まれてきます。そして、その子が抱えているテーマ、時として問題点と思える何かは、親である自分と子供の共通のテーマ、課題なのだと思います。ともに学び合う共通のテーマなのです。

由樹くんのお陰で、さまざまな出会いや、人の心の意味を教えられています。そう答えると、船井先生がいつも口にしてくれる言葉は何ですか？

( )

カッコ内を埋めてください

子供は、親を選んで生まれてきます。そして、その子が抱えているテーマ、時として問題点と思える何かは、親である自分と子供の ( )、課題なのだと思います。